**ハンドマイク街頭演説原稿例　　　憲法生かす平和外交こそ**

二〇二三年四月三十日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、５月３日は憲法記念日、日本国憲法が施行されて７６年を迎えました。過去の侵略戦争を反省し、「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」したのが今の憲法です。国と国とのもめごとを戦争に発展させず、平和的に解決するという日本国憲法の精神は、いまでは世界の大きな流れになっているのではないでしょうか。日本共産党は日本国憲法の精神を守り生かし、平和な世界を実現するために、引き続き全力を尽くす決意です。

　ところがみなさん、今の岸田政権はどうでしょうか。防衛費、軍事予算を５年で４３兆円も増やし、他国の領内にある基地などを攻撃する能力、いわゆる「敵基地攻撃能力」を持とうとしています。政府は「日本を守るためだ」と言っていますが、本当にそうでしょうか。敵基地攻撃のために導入しようとしているのは、音速の５倍という猛スピードで他国の奥深くまで飛ぶミサイルはじめ、こちらから攻撃するためのものばかりです。これまでの自民党政権は、他国を攻撃するような脅威を与える兵器を持つことは、憲法の趣旨と合わないとはっきり言ってきました。岸田政権がやろうとしていることは、まさに憲法に反する、外国を積極的に攻撃する兵器をそろえることではないでしょうか。しかも、アメリカ軍といっしょになって他国を先制攻撃する危険もあります。日本共産党は、このような暴挙に断固反対し、大軍拡をただちにやめるよう求めるものです。

　みなさん、「外国から攻撃されたらどうするのか」という疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。ですが、軍備を強めても戦争を防ぐ力にならないことは、世界の歴史が示していると思います。敵だと考えている国が軍備を増強したから戦争をあきらめる、ということはそれほど多くなく、むしろ相手よりもっと強い軍備を持とうとすることが多くあります。だから、軍備をどんなに強くしても平和には必ずしもつながらず、むしろ戦争を呼び込むことになるのではないでしょうか。

　だからこそ、日本共産党は戦争の準備ではなく、戦争の心配のないアジアを実現するための外交努力こそ第一にやることだと主張しています。いい例が東南アジアにあります。東南アジア諸国連合・アセアンは加盟国同士で友好協力条約をむすび、もめごとを軍事に発展させないために徹底した話し合いを重ね、平和と協力の地域づくりをすすめています。これを日本を含む東アジアで取り組むことこそ、日本が進むべき道ではないでしょうか。東アジアを戦争の心配のない地域に変える外交努力に力をつくす日本をめざし、日本共産党は引き続き全力を上げる決意です。

　政治や社会の問題、気候危機、ジェンダー平等など多彩な記事満載の「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）